

薬仙寺境内にある、当寺院に関する史跡のお話

当寺院の長い歴史（南北朝時代に建立）の中で、現在お隣にある時宗 薬仙寺との関係は切っても切れないものがあります。その薬仙寺の境内には、江戸時代後期に作成されたとされる「踊り念仏連名」の石碑が今も残っています。以前から、この不動心で書きたいなあと思っていたのですが、やっとこの秋に掲載することができました。

さて、下写真の石碑の間に建てられている「立て看板」によりますと



「時宗開祖一遍上人は踊り念仏とお礼くばりを布教の中心として全国を遊行した。そして正応 2 年（1289）この兵庫の地で没した。この関係で兵庫津では踊り念仏がさかんであった。また江戸時代から福原西国霊場巡礼もさかんとなり、御詠歌と踊り念仏をミックスした娯楽的な兵庫の庶民的芸能が生まれた。この連名には兵庫津の有力町人や夫人たちの名が記され踊り念仏が盛んであった様子うかがわれる。民間芸能研究の貴重な資料の一つとされる。」

とあります。なぜこの石碑が、普照院に関するものだと分かるのかと言いますと、当寺院のお檀家さんの「屋号」（今でいう苗字）が、この石碑にはたくさん彫り込まれているからです。平成後期ごろから令和に入って、特に兵庫区南部地域では平清盛公たいらのきよもりがお作りになった福原京の一部である兵庫津の発展と歴史に注目が集まり始め、それに関するイベントも行われるようになりました。私もそれらには積極的に参加させていただいているのですが、そこでいつもこの石碑同様、皆さんのご先祖様こんせきが各時代においてご活躍され、それらの地域文化を未来に残そうと努力されてきた痕跡を感じることができます。

またそういった兵庫津の歴史的なイベントがありましたら、ぜひ皆さんにもお知らせしていきたいと思います。そして普照院にお参りの際にお時間がございましたら、お隣の薬仙寺境内にあるこの石碑も見学してもらえればと思います。

月参法要会を、毎月 1 日午前 11 時よりお勤めしております。

お命日参りや法事を行いたいが、コロナ禍でそれが難しい方など
大事な故人様やご先祖様をお供養したい時に、気軽にお申込み下さい



そろそろお地蔵様のお札を返納したいなあ、と思われている方へ

令和3年3月にコロナ退散祈願のお札をお配りさせていただきました。あれから2年が経過し、そろそろコロナ禍という状況も終わりを迎えようとしています。今年のお盆参り先でも、「このお札はどうさせていただければよろしかったのでしょうか？」というお問い合わせがけっこうありました。もし同じように思われている方がおられましたら、以下を参考にさせていただければと思います。

お配りさせていただいたお札は、当寺院の樽地蔵様のお札で、そのお地蔵様は病魔退散以外にも様々なご利益があるとされています。特に私が勝手に思っているのですが、私の子供たちの健康護守や学業成就など、色々ご利益をいただけてきました。ですので、そのままお仏壇等にお祀りし続けていただいても、全く問題ありません。ただ、充分お世話になったので返納したいという方がおられましたら、私が法事等でお参りさせていただいた際でも結構ですし、こういう時代ですから郵送にて送っていただいても構いません。お寺の方で、丁重にお供養させていただきます。



当寺院の本堂での葬儀は、この不動心が届く檀信徒様からのご紹介であれば、どなた様でもご利用していただくことができます。

* 本堂の使用料は、無料です。詳細はご遠慮なくお問合せ下さい。

〔編集後記〕 お盆のお施餓鬼法要でもお話させていただいたのですが、皆様のご協力のおかげで当寺院は私が住職となってからの約20年間のうちで最も安定した円熟期を迎えています。特に神戸の震災前後の頃の当寺院の状況をご存知の方には、本当に安心していただいているのではないかな、と思っています。しかし今後20年先を考えてみると、私たち住職夫婦二人も老化していくことは間違いありません。そのため、これまでのようにお寺の更なる安定のために様々な行事・事業を拡張していくより、今の状況を持続させ次世代の住職に無事にバトンタッチするためにも、現状維持を目指し、これまでは多少無理をして続けてきたことでも今後私たち二人だけで出来ないことは、おもいきって整理していくことも重要だと思ふようになりました。来年からは次女も社会に出て行きますし、息子も中学3年になり日中の寺にはほとんど居なくなります。それでも住職と大黒の二人で手を取り合って、今後もさらなる安定を目指しお寺を維持して参りますので、寺院護持発展にご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話 078-671-1787 ファックス 078-330-1187

ホームページ <http://fusyojin.com/>



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげてください。

普照院

検索

